巻頭言

「安全で安心して暮らしやすいまち」さがみはらの実現に向けて

相模原市消防局長　小松　幸平

相模原市は、神奈川県の北部、東京都心から概ね３０キロメートルに位置し、面積は３２８．９平方キロメートル、県内で横浜市に次ぐ２番目の広さで、北は東京都、西は山梨県と接しており、７２万人の市民が住む政令指定都市です。本市は複数の鉄道路線や首都圏中央自動車連絡道路の接続により、中部圏や北関東、東北等への交通アクセスの良さを背景にこれまで大きく発展を続けてきました。また、県内最高峰である蛭ヶ岳や県民の水がめである相模湖・津久井湖・宮ヶ瀬湖など、清流を育む広大な森林などの恵まれた自然環境を有し、近年は、テレワークセンターの運営などの多様な働き方の促進や、広く市外から人や企業に選ばれる都市づくりにより、交流人口の増加が見込まれるなど、都市と自然がベストミックスした潜在性のある都市です。

昨年７月には、本市内の約３０ｋｍ区間を走行した東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会自転車ロードレースが開催され、そのレガシーとして、令和４年５月には国際自転車競技連合公認の自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン相模原ステージ」が開催予定であることや、リニア中央新幹線の神奈川県駅が設置されるなど、将来の可能性に満ちあふれています。

さて、本市におきましても新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、対面による各種事業のほか、災害活動等においても大きな影響を受けてきました。今後も災害活動を始め、各種業務における感染防止対策の徹底を図りつつ、引き続き、市民の皆様の安心安全を確保してまいります。

さらに、災害に目を向けますと、火災件数は減少傾向にあるものの、救急件数は高齢化の進行等を背景に増加傾向にあり、本市においても増加する救急需要への的確な対応が求められております。また、近年の気候変動により大型化する台風や局地的な豪雨による土砂災害など自然災害が猛威を振るい、各地で甚大な被害が発生しているとともに、首都直下地震や南海トラフ地震等の発生による大規模地震災害が危惧されています。

本市においても、令和元年の台風第１９号（令和元年東日本台風）は、土砂災害や住家・道路の倒壊など、台風の通過とともに甚大な被害をもたらし、８人もの尊い生命と財産が失われました。

こうした大規模災害へ迅速かつ的確に対応するため、緊急消防援助隊などの応援受入れ体制や災害対応経験の浅い若手職員の増加などを背景とした消防職員･消防団員の教育訓練体制の充実強化を目的として、本年度は防災消防訓練場の機能を拡充する再整備に着手したほか、今後の社会を取り巻く環境の変化に対応すべく、物的・人的資源の適正配置を念頭とした組織運営、新たな消防部隊の運用や業務執行体制の整備を進め、持続可能な消防行政の推進とともに「安全で安心して暮らしやすいまち」の実現に向け、消防職員と消防団員が一体となって、取り組んでまいります。